

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：五島 誠

実施場所：東京都明治大学アカデミーコモン棟3階アカデミーホール	実施日：令和5年5月24日・25日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 日本自治創造学会 研究大会 ・講演 DX時代の日本の原動力を考える ・講演 社会インフラ管理の重要性と人材育成 ・事例発表 新たな議会の挑戦～議員政策条例の推進～埼玉県議会 ・事例発表 DX時代の個性あるまちづくり 群馬県太田市、石川県加賀市、岩手県盛岡市 ・講演 地域の活性化と組織の自立・連携 ・講演 出生率2.95 人口維持のまちづくり～町全体での子育て～岡山県奈義町 ・パネルディスカッション 自治力を高めるには	
■参考とすべき事項 ・加賀市においては早くからデジタル技術の活用を全庁あげて取り組み日本で有数のデジタル自治体を実現しており、トップの方向性の示し方や覚悟のかけ方が大変参考になった。その根底にあるものは人口減少への大きな危機感であり、その解決の一つとしてデジタル技術の活用に見出しているものであった。 ・岡山県奈義町においては少子化対策を重点的に取り組んでおられ、給食費の半額補助や学習教材費の援助など多岐にわたる子育て支援策を張り巡らせておられる。また、そのみならず町民同士で支えあう子育てサポート制度を充実させている。子育てアドバイザー常駐のチャイルドホームや一時保育、自主保育活動なども取り入れている。また、住む場所の提供やしごとコンビニ事業などの就労環境整備なども行っている。その根底にあるのは、少子化対策は最大の高齢者福祉であるとの町長の信念にある。また、子育て支援の財源については自衛隊駐屯地の財源が直接的ではないが関係していると感じた。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・今回様々な市町の事例についても学ばせていただいたが、財源確保とトップのゆるぎない姿勢にあると感じた。特に特殊施設や日本有数の企業抱える城下町は、その恩恵を大きく受けており、それがない本市においては思い切った政策をするためにどのようにして財源を確保するかにかかっている。現在行っている庄原FCやなみかカード等の施策を進化させて都市部の資産家や庄原出身者などから気持ちよく協力いただける仕組みを作っていく必要がある。また、前々回に学んだブリ奨学金のような仕組みを構築し、住民みんなで、関わる方々みんなで子育てや教育について支えあう仕組みづくりが急務であると提言する。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：國利 知史

実施場所：東京都明治大学アカデミーコモン棟3階アカデミーホール	実施日： 令和5年5月24日・25日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>第15回日本自治創造学会 DX時代における本市の課題解決に向けた取り組みの推進に関する研修のために自治創造学会へ研修に行った。</p> <p>研修内容 DX時代の地方創生～自治力を高める～ 一日目 ① DX時代の原動力を考える 益 一哉（東京工業大学学長） ② 社会インフラ管理の重要性と人材育成 石川雄章（北海道大学客員教授） ③ 新たな議会の挑戦～議員政策条例の推進～ 田村琢実（埼玉県議会議員） ④ 埼玉県議会議員へ問う「地方議会のあり方」 穂坂邦夫（日本自治創造学会理事長） ⑤ 教育と音楽とスポーツの個性あるまちづくり 清水聖義（群馬県太田市長） ⑥ スマートシティの新たな挑戦 宮本陸（石川県加賀市長） ⑦ 「ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち」を目指して 中村一郎（岩手県盛岡市副市長） 二日目 ⑧ 地域の活性化と組織の自立・連携 渡辺晶（財務省大臣官房政策立案総括審議官） ⑨ 出生率2.95人口維持のまちづくり～町全体での子育て～ 奥正親（岡山県奈義町長） ⑩ パネルディスカッション 自治力を高めるには 牛山久仁彦、後房雄、宮代真司</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>①日本の陥落の原因は高度経済成長時代以降、物作りに関して完璧を求めすぎ、良いものを作りすぎてマーケティング不足を招き、経営判断を間違ってきた。市町村においても陥りがちである。人材についても狭い要件ではなく、広い間口にすることにより、結果的に良い人材が多く集まる。</p> <p>②日本はインフラの老朽化の問題に直面している。広い地域に古いインフラが点在している。今後はコンパクトシティを実現していくことが鍵である。議員は今そこに住む人のことを考えて調整することが議員の仕事である。 DXこそが小さな自治体が生き残るチャンスである。インフラ整備のための人材確保や人材育成等はDXで解決する。その他の地域課題についても、ドローン、ワンコインセンサー、データプラットフォーム等活用すべきである。データを見ながらの観光施策が必要である。それらDXの推進については、やる気と強い意志が必要である。地域課題はたくさんあり、個人で対応するのは難しい。人がやらなくても良いものはシステムに任せる。持続可能な自治体を作るためには最新で最適なシステムを気軽に使えるようにすべきである。</p> <p>③演題とは少しずれていたが、工業都市である太田市のふるさと納税についての話が中心であった。工業都市であるためにふるさと納税の返礼品が少なく、ふるさと納税で納税額が激減していた。何も無いところから新しいものを作り出し、ふるさと納税にも力を入れている。要は何も無いのではなく「工夫してアイデアを出す」事が重要だということ</p>	

とである。ダメなときは良くなる方法を考える。自分の自治体は自分たちで作るという考え方が必要である。

- ⑦NY タイムズが選ぶ「今行くべき世界の旅行先」2位に選ばれた盛岡市のまちづくりについての講演だった。盛岡市のまちづくりの取り組みは、①眺望景観の保全、②花と緑のガーデン都市づくり（市民・商店街・行政協働）③歴史的景観や風景の維持向上の三点を基本にしている。まちづくりのポイントは地域の強みへのこだわりを持つこと。主体は住民一人ひとりであること。市民に地域を思う気持ちを醸成する事である。無いものを作る事も重要だが、あるものを強化する事が重要である。
- ⑧スポーツによるまちづくりについて、スポーツ活動の推進は教育委員会の管轄ではなく、市長部局で行うべきである。教育委員会の管轄であると「体育」の意味合いが強くなる。「体育」では道徳の意味合いも入ってくるので学校活動の意味合いが強くなる。スポーツは「楽しむ」という意味合いがあるので、教育委員会より市長部局の方が良い。スポーツはシビックプライドを醸成させるには良い。地域に愛着をもち地域に対して誇りを持つことができる。スポーツ施設利用料で収益を見込むことは難しい。パークPFIの活用も検討する。
- ⑨近年、少子化対策に成功した自治体として注目される、岡山県奈義町の施策についての講義であった。人口減少対策で大切なのは多様性を認めて移住者に優しいまちづくりを行う事。若い人に魅力あるまちづくりを行う事である。①産み育てる環境②住む環境（住む場所の確保）③魅力ある教育④就労の場の確保。この四つを強化する事が若者世代の満足度向上に繋がる。また子育てを楽しんでもらう事も大切であるので、子育ては楽しいと思えるような環境作りも必要である。少子化対策は最大の高齢者福祉につながる。高齢者を支えるのは若い人たちであるということが高齢者にも分かってもらう事が大切である。若い人たちの満足度を上げることも必要だが、新しく移住してくる方を気持ちよく受け入れる気持ちが必要であり、住民がそのような気持ちになることも重要である。奈義町は自衛隊の演習場があり、道路などのインフラ整備の負担が少ないことが、子育て政策に予算を多く配分できる要因であると感じたが、要はどこに予算を使うかが重要であり、奈義町の場合は徹底的に子育てに配分し、若い世代の住民満足度を高めている。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

この度の研修では様々な分野から DX 時代の地方創生について学んだが、一番印象に残ったことは、岡山県奈義町の子育てに特化したまちづくりであった。とことん子育て支援に特化することで合計特殊出生率を上げ、人口減少を緩やかにする事を実現している。また、結果的に、若い世代が増えることで高齢者福祉も充実させている。岡山県の北部に位置し、立地的には決して恵まれているとは言えない土地ではあるが、自衛隊の演習場があり、財政的にも補助金等で他市町村と比べて豊かである。しかし、要は、どの施策を優先的に重視して力を入れていくか、どこにお金を使うかが重要であることを学び、本市も今後のまちづくりには何を重点的に行っていくかを明確にすることが必要だと感じた。少子高齢化が著しい本市においては、移住対策、特に若い人たちが移住して来やすい環境を整えると同時に、子育て支援に特化した施策を打ち出していく必要があると感じた。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：林 高正

実施場所：東京都明治大学アカデミーコモン棟3階アカデミーホール	実施日：令和5年5月24日・25日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 今回のメインテーマは、「DX時代の地方創生 ～“自治力”を高める～」でしたので、本市での取組が遅れているデジタルトランスフォーメーションを使って仕事のやり方を変えることへのヒントが貰えるとの思いから研究大会に参加しました。	
■参考とすべき事項 今回の研究大会は私には正直、「期待外れ」でした。DXに関するものは概念的な話が主で、自治力を高めるというものは感じられませんでした。その代り、自治とは何ぞや的な講演が多かった様に思います。そんな各地の取組みの中、岡山県奈義町の「出生率2.95人口維持のまちづくり ～町全体での子育て」という奥町長のお話には、少子化に取り組んでいる我々には、「そうなんだ」と頷きながら聞かせていただきました。岡山県と鳥取県の県境に位置する奈義町の面積は、69.52 km ² で、人口は5700人（2498世帯）ですが、ここ近年、55名程度の子どもが生まれています。 少子化対策は最大の高齢者福祉と町長は話されましたが、高齢者を支える人が減るということは社会全体を支える人が減るということであり、子供が生まれることで人口減少に歯止めをかけるという至極当たり前の理論です。そのために、町民の気持ちに寄り添った経済支援があります。一例として、保育料が国基準の約半額、更に第2子はその半額、第3子以降は無料です。小中学校の給食費の半額を町で負担。小中学校の教育教材費無料。高校生への就学支援として年額24万円の支援金（交通費助成）。大学に町独自の奨学育英金年額60万円、卒業後に町への定住で全額返済免除等、切れ目なく経済支援を受けられる体制が整っているので奈義町で子育てする若い世代の「安心感」につながっています。 その他にも、「なぎチャイルドホーム」を基軸とした地域ぐるみの子育てサポートや、「奈義しごとえん」という就労支援施設なども整備されています。兎に角、奈義町まるごと子育て支援センターといっても良いのではないのでしょうか。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 奈義町では2012年に「子育て応援宣言」を行いました。将来の人口推計を見るにつけ、いかにして人口減少幅を抑えるかと考えたら、「子育てしやすいまち」に奈義町をすることだと奥町長は考えたのだそうです。そして彼の素晴らしいところは、徹底してことに当たったことです。 何はともあれ、真似ることから始めても良いのではないのでしょうか。真似ることは最大の創造といえますから。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：徳永 泰臣

<p>実施場所：東京都明治大学アカデミーコモン棟3階アカデミーホール</p>	<p>実施日：令和5年5月24日・25日</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） DX時代の地方創生～自治力を高める～ と題して各講師による講演、自治体事例発表パネルディスカッション等での研究発表を受講した。</p>	
<p>■参考とすべき事項 その中で特に印象に残った事例発表について特筆してみた。 ○特に群馬県太田市、清水聖義市長による「教育と音楽とスポーツの個性あるまちづくりについて」が印象に残っている。 ○群馬県太田市は授業を英語で行う、私立学校「ぐんま国際アカデミー」の設立を提案したほか、児童生徒が放課後等に専門家から芸術やスポーツの指導が受けられる「おおた芸術学校」や「おおたスポーツアカデミー」を開校するなど独自の教育を展開している 清水市長は「子供の好きなことを伸ばすのが教育。子供の興味に合った専門的な教育を受けさせたい」との考えである。 ○国際アカデミーは市外から生徒を受け入れているため、開校当初は市民に反発もあったという。しかし市長は「転入者の増加で市内経済が活性化したほか、他の自治体にはない学校がある事への市民の誇りも高まり、理解も進んだ」 ○おおた芸術学校は1996年に設立され、オーケストラ科や合唱科、演劇科などのコースをもつ。 ○おおたスポーツアカデミーは2000年に開校し、指導する競技は16種目に上る。 スポーツアカデミーは地域支部の設立も進み「子どものスポーツ参加に広がりが出てきた」と手応えも感じられている。 ○市は芸術学校とスポーツアカデミーを運営する一般社団法人に年間約5500万円の委託料を支出している。清水市長は「行政改革で支出を減らして財源を捻出している。人間の力で太田のまちを元気にしたい」と教育の重要性を指摘。 「他の自治体でも首長のやる気さえあればできる」と訴えている。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ○庄原市としても教育の重要性を再認識し、子育て、教育で個性のあるまちづくりを進めていくべきと思う。 清水市長も「首長のやる気さえあればできる」とも言われている。議員もともに個性あるまちづくりを進めていかなければならないと思う。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。